

週日の説教

金 大烈 神父 2011年8月27日(土)

《タラント・愛する力 ～どのくらい使いましたか?～》

きょうの福音(マタイ 25・14 - 30)は、何回読んでも、その時々で違ったことを考えさせる内容です。

タラントの説明は、既に二年前にも話したことがあります。どのくらいの金額が覚えていますか。タラントより小さい単位は、デナリオンです。1タラントは、6,000デナリオンです。そして1デナリオンは、普通の労働者が一日働いて得られる金額です。ですから1タラントは、労働者が6,000日間働いて得られるお金です。6,000日間というのは、16年と4か月くらいです。労働者がそのくらい働いて得られるお金を1タラントと言うのです。1日の最低の賃金を5,000円と考えると、1タラントは、3,000万円になります。ですから、1タラントと言えばかなり大きい金額になります。

テレビに出て来る人をタレントと言いますね。この話のように、才能に応じてタラントを分けることから、特別な才能を持つ人を『タラント』と言い、それが英語になって『タレント』というようになったのです。価値観が基準になって「あの人は他の人が持っていないタレントを持っている。」などと使います。しかし、実際の『タラント』には、もっと深い意味があります。福音的な『タラント』という言葉は、簡単に言えば『愛する力』のことです。生まれつき愛しやすいタイプの人があります。しかし、環境や育ち、いろいろな傷によって、積極的に愛そうとしてもそれがなかなかできないタイプの人もあります。皆様がどちらのタイプに入っているのかわかりませんが、全ての人間はそれぞれにあった『タラント・愛する力』を持っています。その『タラント・愛する力』をどのくらい使おうと頑張ってきたか、今日の福音をとおして振り返ってみる必要があるのではないかと思います。

タラントを上手に使うのは難しいことです。タラントの多い人は、犠牲を払わなければなりません。愛するためには、犠牲が前提になります。たとえば、子どもに対する無条件の母の愛は、犠牲の上に成り立ちます。

神様からいただいたタラントと同じ意味の日本語があります。それは『賜物』です。人間からもらったものは、賜物とは言いません。神的な存在からいただいたものを賜物と言います。

私たちは、救い主である神様からこの賜物をたくさんいただいています。そしてその賜物は、必ず返さなくてはいけないものです。きちんと返すには、どうすればよいのでしょうか。それには、いただいた器の大きさに合わせて最善を尽くすことです。たとえば、5タラントをもらったら5タラント以上の愛をしなければいけないのです。

私たちの生きる意味、神様がこの世に私たちを遣わされた目的はただ一つかもしれません。それは愛することです。そして私たちがいつかこの世を去って、神様の前に立つ時に神様から聞かれるのは「よく愛したのか？」という質問でしょう。その質問に、どのように答えられるようになるのか、

それが福音の真^{まこと}のメッセージではないかと思います。

いろいろなことで、後悔もするし失敗もすると思います。少なくとも、「私は愛そうとしたけれど失敗をしました。」と言えれば、それはふさわしい言い訳になると思います。それ以外は、言い訳にならないことを意識しましょう。愛そうとして失敗したことは、ある意味でもっとも聖なる傷かもしれませぬ。その傷は、愛してもいいと思います。

今日の福音は、私たちがどのくらいのタラントをもらったかどうかの問題ではなくて、既にもらったそのタラントをどのように使っているかについて、です。それを振り返ってみましょう。

ありがとうございました。